

【海域 WG 担当】

<新規項目の追加> ※3/5 海域 WG での検討前の案。

モニタリング項目	<新規>No. ● シャチの生息状況の調査
モニタリング実施主体	北海道シャチ研究大学連合 (Uni-HORP (University Alliance for Hokkaido Orca Research Project))

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

対応する評価項目	I. 特異な生態系の生産性が維持されていること。 III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 IV. 遺産地域内海域における海洋生態系の保全と持続的な水産資源利用による安定的な漁業が両立されていること。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。		
モニタリング手法	個体識別調査		
評価指標	識別個体数		
評価基準	検討中		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

※既存 No. 8 「エゾシカ影響からの植生の回復状況調査（環境省知床岬囲い区内外）」と統合

モニタリング項目	No. 7 エゾシカの影響からの植生の回復状況調査（林野庁1ha 囲い区内外） エゾシカ個体数調整実施地区における植生変化の把握（森林植生/草原植生）		
モニタリング実施主体	林野庁・環境省		
対応する評価項目	III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 VI. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。		
モニタリング手法	森林植生・草原植生において固定調査区・調査ラインを設定し、植生の組成・ 植被率・食痕率・採食量、指標種の開花密度等を調査する。またシカを排除し た囲い区内の調査から回復過程を推定する。 知床岬（100m×100m）、幌別（120m×80m）、岩尾別（1.9ha）の植生保護柵で囲 われた囲い区と対照区（100m×100m）における毎木調査、植生調査 ガンコウラン群落（15m×15m）、亜高山高茎草本群落（20m×20m）、山地高茎草 本群落（半島基部を遮断）の植生保護柵内外の植生調査等 調査頻度：各年		
評価指標	稚樹密度、下枝密度、群落の組成・植生高、開花株数、食痕率・採食量 稚樹・萌芽の発生密度、下枝被度 下層植生の種数と種組成 ガンコウラン群落：ガンコウラン、シャジクソウ、ヒメエゾネギ等の植被率、 個体数、繁殖個体数 高茎草本群落：群落構造・機能（高さ・被度等）		
評価基準	1980年代以前の状態に回復すること。 稚樹・萌芽の密度、下枝被度：1980年代の状態に回復すること。 下層植生：1980年代の群落構造・機能に回復すること。 ガンコウラン群落：指標種等の植被率、個体数、繁殖個体数が1980年 代の状態に回復すること。 高茎草本群落：群落構造・機能が1980年代の状態に回復すること。		
評価	＜森林植生＞		
	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<u>※植生タイプごとに評価。</u>		
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

モニタリング項目	No. 10 <u>エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査</u> <u>知床半島全域における植生の推移の把握（森林植生/海岸植生/高山植生）</u>	
モニタリング実施主体	環境省・林野庁	
対応する評価項目	<p>III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。</p> <p>VI. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。</p> <p>VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。</p> <p>VIII. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。</p>	
モニタリング手法	<p>知床半島全域に設定した固定調査区において、<u>植生調査を定期的実施し、生育する植物の被度・高さ・更新状況、エゾシカによる食痕率・採食量等の推移について把握する。</u></p> <p>森林では毎木調査、植生調査、エゾシカによる採食状況調査を実施し、高山・亜高山植生、海岸植生では植生調査を実施する。湿原植生については、植生調査及び必要に応じて泥炭の調査を行う。</p> <p>調査頻度：5年周期(一部は2年周期)</p>	
評価指標	<p>森林植生：稚樹・萌芽の発生密度、下枝密度、下層植生の組成・植生高、食痕率・採食量</p> <p>海岸植生・高山植生：<u>群落の組成・植生高、食痕率・採食量出現種数、群落構造・機能、外来種の分布状況、登山道沿いの踏圧状況</u></p>	
評価基準	<p>森林植生：1980年代<u>以前</u>の状態に回復すること。</p> <p><u>海岸植生：1980年代以前の状態を維持または回復すること。</u></p> <p>高山・亜高山及び海岸植生：1980年代<u>以前</u>の状態に回復するを維持していること。</p> <p>登山道沿いの踏圧：踏圧等により登山道の幅が広がっていないこと。</p>	
評価	＜森林植生＞	
	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合	<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 改善
	<u>※植生タイプごとに評価。</u>	
今後の方針		

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

モニタリング項目	No. 11 シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査 <u>希少植物（シレットコスミレ）の生育・分布状況の把握</u>		
モニタリング実施主体	環境省		
対応する評価項目	III. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 VI. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。 VIII. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。		
モニタリング手法	シレットコスミレをはじめとした知床半島の希少植物について、主要生育地における個体群の生育状況と生育への脅威要因を把握。 遠音別岳及び硫黄山の固定方形区にて、シレットコスミレの分布状況の調査。知床半島全域における現存量の把握。		
評価指標	<u>個体群の分布状況、追跡個体群の個体数・被度・脅威となる要因分布域と密度</u>		
評価基準	<u>希少植物の個体群が維持されていること。</u> 生育・分布状況の維持。エゾシカによる採食が見られないこと。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

※既存 No. ⑪「エゾシカ主要越冬地における地上カウント調査」と統合

モニタリング項目	No. 12 <u>エゾシカ越冬群の広域航空カウント調査</u> <u>エゾシカ主要越冬地における生息状況の把握（航空カウント/地上カウント）</u>		
モニタリング実施主体	<u>環境省、北海道、斜里町、羅臼町、知床財団</u>		
対応する評価項目	VI. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。		
モニタリング手法	航空カウント調査：5年に1回の頻度で知床半島全域をヘリコプターで低空飛行し、エゾシカの越冬個体数のカウントと位置情報を記録。半島の一部（遺産地域内全域）においては、2014年以降は毎年実施。 <u>地上カウント調査：主要越冬地におけるライトセンサス等</u>		
評価指標	航空カウント調査：越冬期の発見頭数（発見密度） <u>地上カウント調査：単位距離あたりの発見頭数または指標</u>		
評価基準	航空カウント調査： <u>知床岬地区は5～10頭/km²以下、幌別-岩尾別地区・ルサ-相泊地区は5頭/km²以下となること（ルシャ地区は対象としない）</u> <u>主要越冬地の生息密度が5頭/km²（1980年代初頭水準）以下となること</u> 地上カウント調査： <u>各調査地の調査開始時期（幌別-岩尾別地区1988年、ルサ-相泊地区2009年、真鯉地区2007年、峯浜地区2004年）の水準以下となること。</u> <u>生息密度指数が1980年代初頭のレベルかどうか</u> <u>※いずれの基準にも適合する場合にのみ「適合」、いずれか1つでも基準に適合しない場合には「非適合」と評価する。</u>		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

モニタリング項目	No. 13 陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況調査の把握 —(外来種侵入状況調査含む)—		
モニタリング実施主体	環境省		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 Ⅵ. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。		
モニタリング手法	知床岬、幌別地区、羅臼地区等の既存の植生保護柵及び広域採食圧調査区にて、ピットフォールトラップ、ボックスライトトラップ、スウィーピングを実施 —(概ね5年毎) 。		
評価指標	昆虫相、生息密度、分布、外来種の分布状況		
評価基準	<u>おおよそ遺産登録時と比べて</u> 多様性の低下が生じないこと。 セイヨウオオマルハナバチ以外の特定外来生物が発見されないこと。 <u>セイヨウオオマルハナバチの顕著な増加が見られないこと。</u>		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

モニタリング項目	No. 14 陸生鳥類の生息状況調査の把握		
モニタリング実施主体	環境省		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 Ⅵ. エゾシカの高密度状態によって発生する遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないこと。		
モニタリング手法	ラインセンサス法またはスポットセンサス法により確認された生息鳥類の種類及び個体数を記録する —(概ね5年毎) 。		
評価指標	鳥類相、生息密度、分布、外来種の分布状況		
評価基準	<u>おおよそ遺産登録時と比べて</u> 多様性の低下が生じないこと。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜既存項目の見直し＞

モニタリング項目	No. 20 <u>ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査</u> <u>ヒグマによる人為的活動への被害状況</u>		
モニタリング実施主体	環境省、 <u>林野庁</u> 、 <u>北海道</u> 、 <u>斜里町</u> 、 <u>羅臼町</u> 、 <u>標津町</u> 、 <u>知床財団</u>		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	<u>公園利用者が関係するヒグマによる被害や危険事例</u> 、 <u>公園利用者による人間側の問題行動</u> 、施設の開閉状況をアンケートや通報、ヒグマ対策業務等を通じて情報収集。		
評価指標	ヒグマによる <u>公園利用者の人身被害の発生件数</u> 、 <u>公園利用者関連の危険事例の発生状況</u> 、 <u>公園利用者による人間側の問題行動の状況</u> 、 <u>公園利用者が関係するヒグマ捕獲数</u> 、 <u>施設の開閉状況</u> 、 <u>ヒグマの有害捕獲数</u> 、 <u>ヒグマによる農林水産業被害状況</u> 。		
評価基準	参考資料（基準なし） <ul style="list-style-type: none"> ・ <u>ヒグマによる人身被害を起こさないこと</u> ・ <u>人間側の問題行動に起因する危険事例及び漁業活動に関する危険事例の発生を、5年間で計12件以下の水準に抑えること</u> ・ <u>斜里町における農業被害額及び被害面積を2021年度までに2016年度比で1割削減すること</u> 		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針			

【エゾシカ・ヒグマ WG 担当】

＜新規項目の追加＞

モニタリング項目	＜新規＞No. ● 知床半島のヒグマ個体群
モニタリング実施主体	環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町、標津町、知床財団

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

対応する評価項目	Ⅱ. 海洋生態系と陸上生態系の相互関係が維持されていること。 Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	人為的死亡個体に関する情報収集、ヒグマ個体群長期トレンド調査 (糞カウント調査、自動撮影カメラ調査、観光船からの目撃件数等)		
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・メスヒグマの人為的死亡数 ・ヒグマ個体数の増減傾向 		
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・メスヒグマの人為的死亡数が5年間で75頭以下の水準であること ・ヒグマ個体数の顕著な減少傾向が見られないこと 		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針	<p>※評価基準「ヒグマ個体数の顕著な減少傾向が見られないこと」の評価は当面困難であるが、モニタリング手法や評価方法の確立後に、具体的な評価基準の設定について検討する。</p> <p>※メスヒグマの人為的死亡数に係る評価は、毎年ではなく5年ごとに行う。ただし、ヒグマ管理計画のアクションプランに基づき毎年の把握・評価は引き続き行う。</p> <p>※評価項目Ⅱに対応するモニタリングについては、その手法を含めて今後検討していく。</p>		

【適正利用・エコツアーリズム WG 担当】

<新規項目の追加> ※2/28 適正利用・エコツアーリズム WG での検討前の案

モニタリング項目	No.19a 適正利用に向けた管理と取組
モニタリング実施主体	環境省（適正利用・エコツアーリズム WG 事務局）
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。
モニタリング手法	知床白書掲載内容及びエコツアーリズム検討会議資料より適正利用に向けた管理と取組を抽出し列挙

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

評価指標	管理と取組の実施状況		
評価基準	「知床エコツーリズム戦略 9. 具体的方策」を実現するための管理と取組が行われていること。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>評価には別紙 No. 19a 評価シートを参照</p> <p>※評価のめやす</p> <p>「現状維持」： 「改善」「悪化」以外の状況。</p> <p>「改善」： 前年と比較して新たな管理や取り組みが行われた。</p> <p>「悪化」： 前年と比較して必要な管理や取り組みが極端に減少している。</p>		
今後の方針			

コメント（実際の評価シートには記載しません。）

※遺産登録時から現時点までである程度の管理の枠組みができているため、現在の管理状況を基準に評価する。

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

No.19a 評価シート

項 目	
<p>(1) 利用コントロール</p> <p>・ 自然環境の保全、観光客の安全確保、原始性の保持、付加価値の向上等の目的に応じた利用コントロールが実施されているか。</p>	<p>・ 知床五湖利用調整地区制度の運用 (別添 19a-1)</p> <p>・ 行政機関等による管理活動の実施 (別添 19a-2)</p> <p>・ ○○○○</p>
<p>(2) 守るべきルールの設定と指導</p> <p>・ 自然環境の保全、観光客の安全確保、地域の文化・生活への配慮等の目的に応じたルールが設定されているか。また、それらのルールの指導が行われているか。</p>	<p>・ 行政機関等による管理活動の実施 (別添 19a-2)</p> <p>・ ○○○○</p>
<p>(3) 情報の発信</p> <p>・ 地域主体のエコツアーの増加や守るべきルールの周知を目的とした情報発信が行われているか。</p>	<p>・ 情報の公開および発信の運用 (別添 19a-3)</p> <p>・ 情報発信</p> <p>・ ○○○○</p>
<p>(4) ガイドの育成とガイド利用の推奨</p> <p>・ ガイドの育成が行われ、ガイド利用が推奨されているか。</p>	<p>・ ○○○○</p>
<p>(5) 文化的資産等の活用</p> <p>・ 保全に留意しながら文化的資産等が活用されているか。</p>	<p>・ 赤岩昆布ツアーでの取組 (別添 19a-○)</p> <p>・ 「しれとこ森づくりの道」での取組 (別添 19a-○)</p> <p>・ ○○○○</p>
<p>(6) 利益の還元</p> <p>・ 観光利用によって得られた利益が地域の自然や社会に還元されているか。</p>	<p>・ 知床ウトロ海域環境保全協議会での取組 (別添 19a-○)</p> <p>・ 赤岩昆布ツアーでの取組 (別添 19a-○)</p> <p>・ 知床五湖冬期利用での取組 (別添 19a-○)</p> <p>・ ○○○○</p>
<p>(7) 施設整備</p> <p>・ 年次計画による計画的な施設整備が行われているか。</p>	<p>・ ○○○○</p>
<p>(8) モニタリング</p> <p>・ 観光客の評価 (満足度や感想など) やニーズ、行動特性の変化等がモニタリングされているか。</p>	<p>・ 満足度調査等のアンケートの実施 (別添 19a-○)</p> <p>・ 五湖冬期利用、赤岩地区昆布ツアーアンケート結果 (別添 19a-○)</p> <p>・ ○○○○</p>

【適正利用・エコツーリズム WG 担当】

<新規項目の追加> ※2/28 適正利用・エコツーリズム WG での検討前の案

モニタリング項目	No.19b 適正な利用・エコツーリズムの推進		
モニタリング実施主体	環境省（適正利用・エコツーリズム WG 事務局）		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	遺産地域利用関係者への聞き取り調査により適正な利用やエコツーリズムの推進状況を把握		
評価指標	「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿った事業の実施状況、利用者の増減、客層の変化、自然環境に対する懸念		
評価基準	「知床エコツーリズム戦略 5. 基本方針（１）、（２）」に基づき、適正な利用およびエコツーリズムの推進が行われているか。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	<p>評価には別紙 No. 19b 評価シート参照</p> <p>※評価のめやす</p> <p>「現状維持」： 多くの事例で「改善」「悪化」以外の状況であり、適正な利用・エコツーリズムの推進が継続的に行われていると判断できる。</p> <p>「改善」： 前年と比較して、新たな取り組みが行われた事例がある。それにより、利用者数や客層が変化するなど、自然環境や利用への懸念が少なくなった。</p> <p>「悪化」： 前年と比較して運用状況の悪化や利用者数の急激な増加、客層の変化等があり、自然環境や利用への影響に懸念が増加している。</p>		
今後の方針			

No. 19b 聞き取り調査用シート

団体名			
事業名			
事業内容			
記入日	平成 年 月 日	記入者	様
		連絡先 TEL	

貴団体が催行されている事業、ツアーが該当すると思われる箇所の□にチェックの記入をお願いします。

① 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿って事業を実施しているかお伺いします。

【基本原則】

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。
- 持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】

- 事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続的である。
- 事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。
- 自然環境の保全に配慮している。
- 利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。
- 事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。
- 利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。
- 事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。
- 事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取り組みなどがあればご記入ください。

--

② 利用者数、客層の状況についてお伺いします。

利用者数は、

- 増加している
- 減少している
- どちらともいえない

客層（特に、自然環境への配慮や世界自然遺産・知床についての知識があるかなど）は、

- 変化している
- 変化していない
- どちらともいえない

利用者数や客層について、気がついたことや気になることがあればご記入ください。

--

③ 事業、ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について、何か気になることや心配なことはありますか。

- ある
- ない

「ある」方は内容をご記入ください。

--

【適正利用・エコツーリズム WG 担当】

<新規項目の追加> ※2/28 適正利用・エコツーリズム WG での検討前の案

モニタリング項目	No.19c 利用者数の変化		
モニタリング実施主体	関係行政機関、事業者等		
対応する評価項目	VII. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	利用者カウンターによるカウントおよびアンケート調査等により主要利用拠点における利用者数を把握		
評価指標	各利用拠点等の利用者数		
評価基準	基準なし（利用者の実態を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
	評価には別紙 No. 19c 評価シート参照		
今後の方針	当面は評価基準なし。今後、遺産登録前からの利用の変動幅などに明確な傾向が確認できれば、評価基準の設定を検討する。		

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

No.19c 評価シート

モニタリング項目	No. 19c 利用者数の変化					
評価基準	基準なし					
評価指標	各利用拠点等の利用者数					
項 目	2005年 (遺産登録年)	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
斜里町観光入込数						
羅臼町観光入込数						
五湖園地全体利用者数 (駐車場利用者数+シャトルバス五湖利用者数)						
知床五湖高架木道・地上遊歩道利用者数						
知床五湖シャトルバス利用者数 (カムイワッカ以外の利用を含む)						
カムイワッカ来訪者数						
フレペの滝利用者数 (フレペの滝カウンター調査)						
連山登山道利用者数 (岩尾別カウンター)						
連山登山道利用者数 (硫黄山カウンター)						
連山登山道利用者数 (湯ノ沢カウンター)						
羅臼湖登山道利用者数 (羅臼湖カウンター調査)						
熊越えの滝利用者数 (熊越えの滝カウンター調査)						
陸路による知床岬、知床沼方面利用者数 (ウナキベツ・観音岩カウンター調査)						
岩尾別登山口、羅臼温泉登山口および硫黄山登山口における入林簿等からの入山数とそのうちの縦走利用者数						
ウトロ地区観光船利用者数						
羅臼地区観光船利用者数						
シーカヤック利用者数						
サケ・マス釣り利用者数 ウトロ						
サケ・マス釣り利用者数 羅臼						
知床自然センター利用者数						
羅臼ビジターセンター利用者数						
知床世界遺産センター利用者数						
知床世界遺産ルサフィールドハウス利用者数						

コメント (実際の評価シートには記載しません。)

※これまで把握していた以下の項目は長期モニタリングとして把握しないこととする。

- ・ 知床五湖冬季利用⇒あくまでも斜里町観光協会が主催するツアーとしての利用。年ごとの運用に影響を受けるほか、部会からの報告に含まれるため除外。
- ・ 縦走路の下山者数、滞在日数、宿泊者数⇒入林簿からの縦走者数の把握で十分なため除外。
- ・ ダイナビジョンや道の駅などの観光施設⇒適正利用には直接影響しないため除外。

長期モニタリング項目の主要な見直し結果

【科学委員会担当】

<既存項目の見直し>

モニタリング項目	No. 21 気象観測		
モニタリング実施主体	環境省、林野庁		
対応する評価項目	Ⅷ. 気候変動の影響もしくは影響の予兆を早期に把握できること。		
モニタリング手法	知床峠、知床岬、羅臼岳等にて、気温、降水量、日射量、積雪深などを調査。		
評価指標	気温、降水量、日射量、積雪深など		
評価基準	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているかどうか（基礎データとして他のモニタリング結果の評価にも活用）。		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>これまで本モニタリングは未実施のため、平成31年度から実施予定。</u> ・ <u>関係機関から収集した気象観測情報の整理・分析により、長期的な変動幅を確認。その後の評価は毎年ではなく数年～5年ごとに行う想定。</u> 		

(参考) 入手可能な知床半島付近気象観測情報

	観測地点	データの種類 (提供元)	観測内容
①	斜里町以久科南	アメダス (気象庁)	気温、降水量、降雪深、積雪深、日照時間、風向・風速
②	斜里町宇登呂		
③	羅臼町栄町		
④	斜里町大字遠音別字噴辺 (オシンコシン)	国道テレメータ (北海道開発局)	雨量、風速、風向、気温、路面温度、積雪深、視程
⑤	羅臼町知床峠 (知床峠)		
⑥	羅臼町幌萌町 (羅臼峠)		
⑦	斜里町字美咲 (斜里川)	河川テレメータ (北海道建設管理部)	水位、流量
⑧	斜里町字中斜里 (猿間川)		
⑨	羅臼町緑町 (羅臼川)		

【科学委員会担当】

<既存項目の見直し>

モニタリング項目	No. 23 シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査		
モニタリング実施主体	環境省釧路自然環境事務所		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。		
モニタリング手法	生息地点が確認されているつがいに対し、幼鳥識別のための標識を装着。死亡・傷病個体は発見時に原因調査。		
評価指標	つがい数、繁殖成功率（標識幼鳥数など）		
評価基準	つがい数：遺産登録時の数がおよそ維持されていること 繁殖成功率（繁殖成功つがい数／確認つがい数）：遺産登録時の繁殖成功率がおよそ維持されていること		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省のシマフクロウ保護増殖事業の中で本モニタリングを継続。知床世界自然遺産地域におけるデータを利用して、評価項目「Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。」を評価。 ・現在、「シマフクロウ保護増殖事業検討会」において遺産地域の評価を求めているため、引き続き、科学委員会にはその評価結果を毎年報告する。 		

【科学委員会担当】

<既存項目の見直し>

モニタリング項目	No. 25 年次報告書作成等による社会環境の把握		
モニタリング実施主体	環境省、林野庁、北海道、知床世界自然遺産地域科学委員会		
対応する評価項目	Ⅲ. 遺産登録時の生物多様性が維持されていること。 Ⅳ. レクリエーション利用等の人為的活動と自然環境保全が両立されていること。		
モニタリング手法	人口動態、産業活動などに関する各種統計の整理		
評価指標	人口、産業別就業者数		
評価基準	参考資料（基準なし）		
評価	<input type="checkbox"/> 評価基準に適合		<input type="checkbox"/> 評価基準に非適合
	<input type="checkbox"/> 改善	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 悪化
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>引き続き、知床世界自然遺産地域年次報告書の作成を通して把握する。（毎年、科学委員会において当該報告書（案）を確認いただく）。</u> ・<u>海域WG等と調整し、知床における人口・世帯数や産業別就業者数等の情報を年次報告書に追加することを検討。</u> 		